重要な情報が記載されています ので、必ずお読み下さい。

製造販売元:

辰巳化学株式会社

金沢市久安3丁目406番地

販売元:



株式会社フェルゼンファーマ

選択的直接作用型第Xa因子阻害剤 リバーロキサバン口腔内崩壊錠

リバーロキサバンOD錠10mg「TCK」 リバーロキサバンOD錠15mg「TCK」

「使用上の注意」改訂のお知らせ

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のお引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和7年11月26日付厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知により、リバーロキサバンOD錠10mg「TCK」及びリバーロキサバンOD錠15mg「TCK」の「使用上の注意」の改訂を致しましたので、ご案内申し上げます。

何卒ご承知の上、ご使用賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

■ 改訂箇所

_____ 医薬安通知による変更箇所 _____ 自主改訂による変更箇所

改 訂 後

- 改訂前
- 2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)
- 2.1~2.5 現行の通り
- **2.6** リトナビルを含有する製剤、ダルナビル、 ホスアンプレナビルを投与中の患者 [10.1、 16.7.1 参照]
- 2.7~2.9 現行の通り
- 2.10 ロナファルニブを投与中の患者 [10.1 参 昭]
- 2.11、2.12 現行の通り (番号繰り下げ)

- 2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)
- 2.1~2.5 省略
- 2.6 リトナビルを含有する製剤、アタザナビル、ダルナビル、ホスアンプレナビルを投与中の患者 [10.1、16.7.1 参照]
- 2.7~2.9 省略

2.10、2.11 省略

10. 相互作用

現行の通り

10.1 併用禁忌 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子						
果別石寸 リトナビルを含有 する製剤(ノービ ア、カレトラ、パ キロビッド) ダルナビル(プリ ジスタ) ホスアンプレナビ ル(レクシヴァ) [2.6、16.7.1 参照]	本剤が上間では の上昇作れの が上間では が は は に の た し の た り と は と に の た し の た り り り り り り り り り り り り り り り り り り	CYP3A4の強 力な阻害及び P- 糖タンパク の阻害により クリアランス						

10. 相互作用

省略

10.1 併用禁忌 (併用しないこと)

	-21				
薬剤名等	臨床症	Ē状·	措置方法	機序・危険因子	
現行の通り					
ロナファルニブ (ゾキンヴィ) [2.10 参照]	度抗増と血増		血 昇作れり険る 中し用る、性お とはがそ	CYP3A4の強力な阻害及び P-糖タンパクの阻害により クリアランス が減少する。	
	れが	ある	<u></u>		

改 訂 後

10.2 併用注意 (併用に注意すること) 現行の通り

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を 十分に行い、異常が認められた場合には投与を中 止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 出血

頭蓋内出血(0.09%)、脳出血(0.06%)、出血 性卒中(0.06%)、眼出血(0.23%)、網膜出 血(0.08%)、直腸出血(1.25%)、胃腸出血 (0.74%)、メレナ (0.53%)、上部消化管出血 (0.36%)、下部消化管出血(0.21%)、出血性胃 潰瘍(0.14%)、関節内出血(0.16%)、コンパー トメント症候群を伴う筋肉内出血(0.01%)、脾 破裂に至る脾臓出血(頻度不明)等の重篤な出血 があらわれることがあり、死亡に至る例が報告さ れている。重篤な出血等の異常が認められた場合 は投与を中止すること。

なお、出血に伴う合併症として、ショック、腎不 全、呼吸困難、浮腫、頭痛、浮動性めまい、蒼 白、脱力感があらわれることがある。また、一部 の例では貧血の結果として胸痛又は狭心症様の心 虚血症状があらわれている。[1.、2.2、8.1-8.5、

11.1.2~11.1.5 現行の通り

11.2 その他の副作用

現行の通り

9.1.1 参照]

なお、他の項は現行の通りとする。

改訂前

臨床症状・措置方法機序・危険因子 薬剤名等 省略

10.2 併用注意(併用に注意すること) 省略

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を 十分に行い、異常が認められた場合には投与を中 止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 出血

頭蓋内出血(0.09%)、脳出血(0.06%)、出血 性卒中(0.06%)、眼出血(0.23%)、網膜出 血(0.08%)、直腸出血(1.25%)、胃腸出血 (0.74%)、メレナ (0.53%)、上部消化管出血 (0.36%)、下部消化管出血(0.21%)、出血性胃 潰瘍(0.14%)、関節内出血(0.16%)、コンパー トメント症候群を伴う筋肉内出血(0.01%)等の 重篤な出血があらわれることがあり、死亡に至る 例が報告されている。重篤な出血等の異常が認め られた場合は投与を中止すること。

なお、出血に伴う合併症として、ショック、腎不 全、呼吸困難、浮腫、頭痛、浮動性めまい、蒼 白、脱力感があらわれることがある。また、一部 の例では貧血の結果として胸痛又は狭心症様の心 虚血症状があらわれている。[1.、2.2、8.1-8.5、 9.1.1 参照]

11.1.2~11.1.5 省略

11.2 その他の副作用

省略

■ 改訂理由

経口抗凝固薬の脾破裂リスクについて、国内外症例、WHO 個別症例安全性報告グローバルデータベース (VigiBase) を用いた不均衡分析結果が評価された。症例の因果関係評価及び使用上の注意の改訂要否について、専門委員の意見も聴取した結果、以下の内容を踏まえ、使用上の注意を改訂することが適切と判断された。

- ・国内外症例及び文献報告において、複数の経口抗凝固薬(アピキサバン、ダビガトラン、リバーロキサバン、ワルファリン)で脾破裂との因果関係が否定できない症例が認められていること。
- ・経口抗凝固薬による脾破裂の機序は、明確にはなっていないが、文献において、経口抗凝固薬の 投与下において脾臓における止血機構に変化が生じ、脾臓出血をきたすことにより脾破裂に至る ものと推察されている。推察されている機序を考慮すると、脾破裂は、経口抗凝固薬クラスにお いて潜在的なリスクになり得ると考えること。
- ・VigiBase を用いた不均衡分析において、経口抗凝固薬5成分全でについて「脾破裂」に関連する副作用報告数が、データベース全体から予測される値より統計学的に有意に高かったこと。また、相互作用相手薬記載との整合のため。

改訂内容につきましては、令和 7 年 12 月発行予定の「医薬品安全対策情報 (DSU) No.341」に掲載されます。また、改訂後の添付文書は弊社ホームページ (https://www.feldsenfpharma.co.jp/)及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ (https://www.pmda.go.jp/)に掲載されますので、併せてご利用下さい。

なお、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ®」を用いて、以下の GS1 バーコードを読み取ることで、最新の添付文書をご覧頂くことが可能です。

(01)14987923506952